



HP Retail Peripheral Agent テクニカル ユーザー ガイド v1.0.0.1

目次

はじめに.....	1
前提条件.....	2
インストールおよびセットアップ.....	3
[HP Retail Peripheral Agent]サービスの情報.....	8
リテール デバイスのプロパティおよび統計値の更新.....	9
管理機能フィールド.....	15
HPの現在のデバイス サポート一覧.....	17
既知の動作.....	20
FAQ.....	21

はじめに

[HP Retail Peripheral Agent]は、リテール端末に接続されたリテール周辺機器に関する情報をリモートで動的に取得するために使用できるサービスです。[HP Retail Peripheral Agent]は、36のUPOSデバイスクラスをすべてサポートしています。

[HP Retail Peripheral Agent]の主な目的は、CIM (Common Information Model) オブジェクトマネージャーと管理対象のPOS (Point-of-Sale) ユニットの間の仲介者として機能することです。[HP Retail Peripheral Agent]サービスによって収集された情報は、暗号化された形式でローカルに保存されます。管理機能アプリケーションはこの情報にアクセスして分析を実行できます。[HP Retail Peripheral Agent]は、[HP TechPulse] (<http://www.hp.com/go/daas/> (英語サイト)) アプリケーションに対応し、直接パスを持つように設計されています。

[HP Retail Peripheral Agent]は、リテール デバイス管理情報の報告機能に加えて、リテール エクスペリエンスを強化するために以下の機能を提供します。

- 予防のための戦略：[HP Retail Peripheral Agent]には、分析のしきい値をリテール周辺機器ごとに手動で設定し、分析のために管理機能ソフトウェアにデータを報告する機能があります。目標は、リテール デバイスの使用状況をお客様に通知（つまり、それぞれのリテールデバイスのライフサイクルを通した稼動時間数、レシート プリンターのライフサイクルを通した累積用紙カット回数、MSRの正常なカード スワイプ回数などを報告）し、しきい値の状態に基づいて、故障する前にお客様が機器を交換できるようにすることです。
- 監視および警告のオプション：[HP Retail Peripheral Agent]には、リテール スペースで発生することがわかっているデバイスの信号をチェックする追加の監視機能も含まれています。USBキャッシュドローアー デバイスの落下や、ハンドヘルドスキャナーが誤って接続解除されたなどのイベントに加えて、USBメモリの接続または取り外しを監視し、インシデントを指定されたITスタッフや現地スタッフなどに電子メールで報告できます（SMTPポート番号587、代替SMTPポート番号465、初期設定の発信元メール サーバー：rposserver@gmail.com）。

前提条件

[HP Retail Peripheral Agent]の要件は以下のとおりです。

- オペレーティング システム：Windows 10 ProまたはWindows 10 IoT
- HP製PC
- フレームワーク：Microsoft .NET Framework v4.6
- UPOSドライバー：CC0 v1.14および周辺機器のOPOSドライバー スタックのサポート
- オプションのエージェント：[\[HP TechPulse\]](#)
(https://www.hpdaas.com/wizard_download/) または代替の管理機能ソフトウェア

HP製のリテール周辺機器に関する全般的な情報およびUPOS v1.14の仕様は、以下を参照してください。

- HP POS構成ガイド：
<http://h10032.www1.hp.com/ctg/Manual/c05837004>（英語サイト）
- UPOS v1.14の仕様：
<https://www.omq.org/retail/unified-pos.htm>（英語サイト）

インストールおよびセットアップ

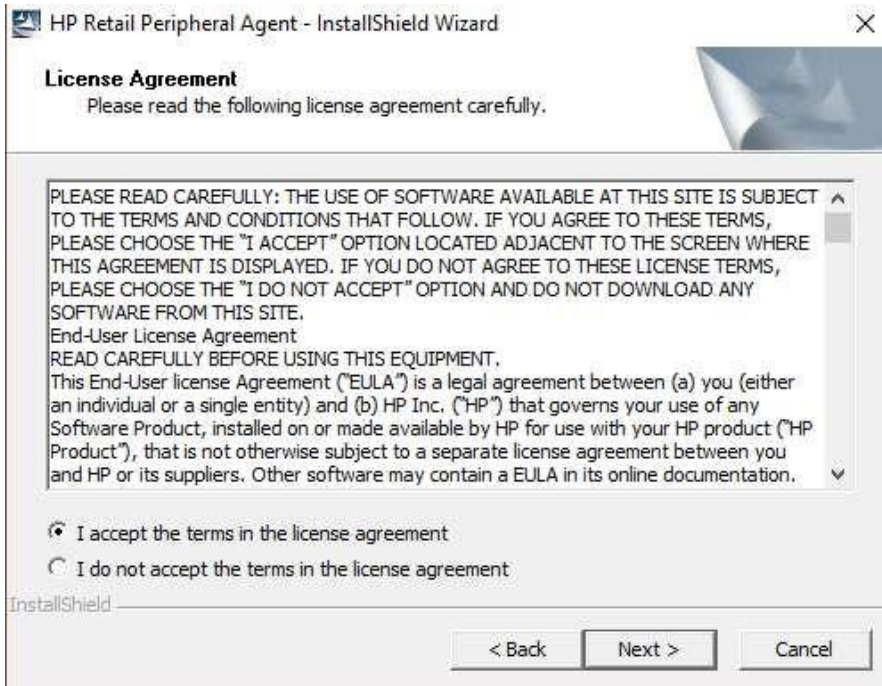
[HP Retail Peripheral Agent]をインストールするには、以下の操作を行います。

[HP Retail Peripheral Agent]のSoftpaqインストーラーを実行します。GUIに従ってインストールプロセスを完了します。

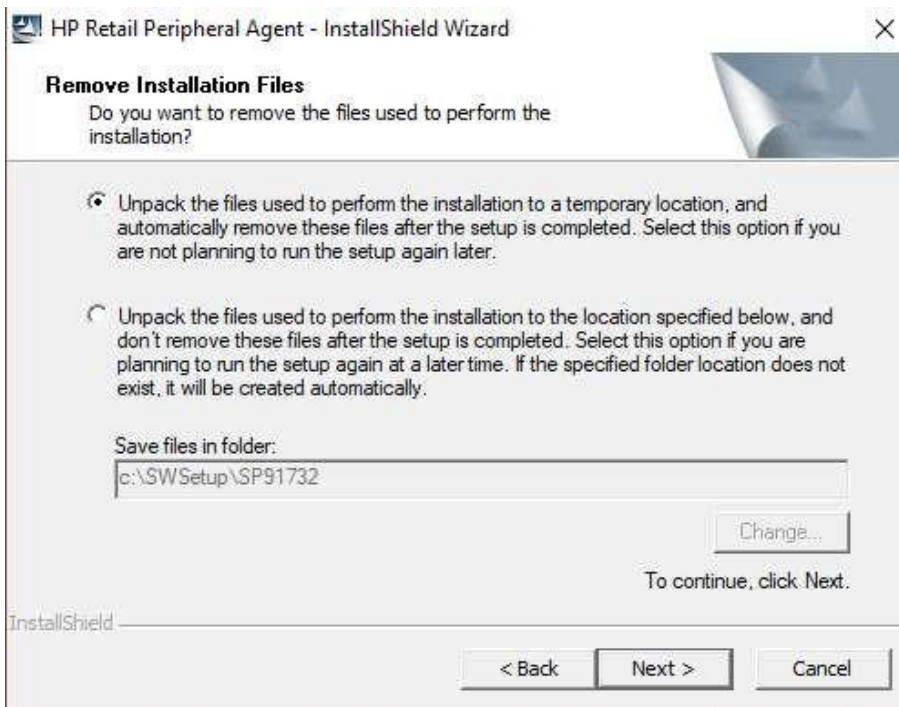
画面1：初期コンポーネントの説明の例



画面2：Softpaqの使用許諾契約（EULA）



画面3：インストールパッケージがインストールされる場所



[Next] (次へ) を選択すると、インストールが完了して自動的に閉じます。

サイレントインストールを実行するには、[HP System Software Manager] (<http://www8.hp.com/us/en/ads/clientmanagement/overview.html?404m=rt404Mb.cache-ccto0#overview>) (英語サ

イト))を使用するか、リモート展開用のサイレントスイッチを付けて、以下のようなコマンドライン文字列を実行します。

サイレントスイッチ : sp9****.exe /s

インストールが完了すると、サービスは自動的に開始されます。

正常にインストールされると、[HP Retail Peripheral Agent]のファイルコンテンツは「C:\Program Files (x86)\HP\HP Retail Peripheral Agent」に格納されます。

[HP Retail Peripheral Agent]サービスのステータスを確認するには、以下のコマンドラインを入力します。

- sc query “HP RPOS Agent Service”

このコマンドで「実行」ステータスが返された場合、サービスはアクティブであり、動作中の状態です。このコマンドで「停止」が返された場合、サービスは実行されていません。サービスが停止している場合は、イベントビューアーでエラーコードを確認してください。

同様に、[HP TechPulse]サービスを使用している場合は、以下のコマンドを実行してステータスを確認できます。

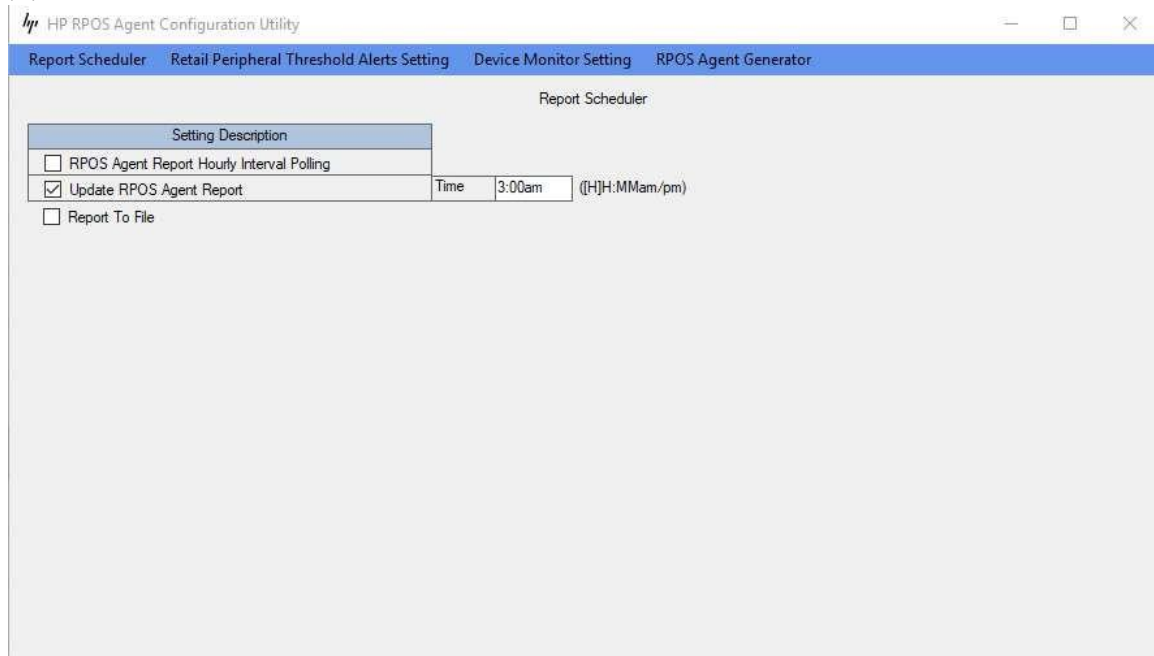
- sc query “HPTouchpointAnalyticsService”

[HP Retail Peripheral Agent]を構成するには、インストールパスに移動して、「HP Retail Peripheral Agent Configuration Utility」(HP Retail Peripheral Agent設定ユーティリティ)(RPOSAgentUtility.exe)を実行します。このツールでは、以降のセクションでISVのさまざまな環境要件を満たすようにカスタマイズできます。

- [Report Scheduler] (レポートスケジューラ) : このセクションには、周辺機器のデータを収集するタイミングを設定するためのオプションがあります。初期設定では、デバイスデータの収集が開始される時間は午前3:00です(図1の[Update Retail Peripheral Agent Report] (リテール周辺機器のエージェントレポートの更新)フィールドを参照してください)。[Update Retail Peripheral Agent Report] (リテール周辺機器のエージェントレポートの更新)は変更可能なフィールドであり、閉店時間や特定のアイドル時間など、希望の時間に編集できます。オプション設定は以下のとおりです。
 - ポーリングオプションが選択/有効にされている場合、サービスはUPOSの排他的使用の指定に従ってデバイスの可用性を検索します。すべてのデバイスが利用可能である場合は分析のためにデータを収集し、利用できないデバイスがある場合は次の時間に再度確認します。その日の23時までにはすべての周辺機器からデータが収集されます。まだ排他的使用の状態にある周辺機器については、NULL値が返されます。データは、ローカルに保存することも、DaaSクラウドストレージプロバイダーにアップロードすることもできます。

- ポーリングが選択されておらず、[Update RPOS Agent Report] (RPOSのエージェント レポートの更新) のみが選択されている場合は、設定された時間にすべての周辺機器からデータが収集されます。まだ排他的使用の状態にある周辺機器については、NULL値が返されます。
- ポーリングが選択されておらず、[Report To File] (ファイルに報告) オプションが選択されている場合は、すべての周辺機器からデータが収集され、まだ排他的使用の状態にある周辺機器についてはNULL値が返されます。注: ファイル オプションが有効になっている場合、管理機能データは C:\ProgramData\HP\RetailPeripheralAgent*date&time*.dat に保存されます。

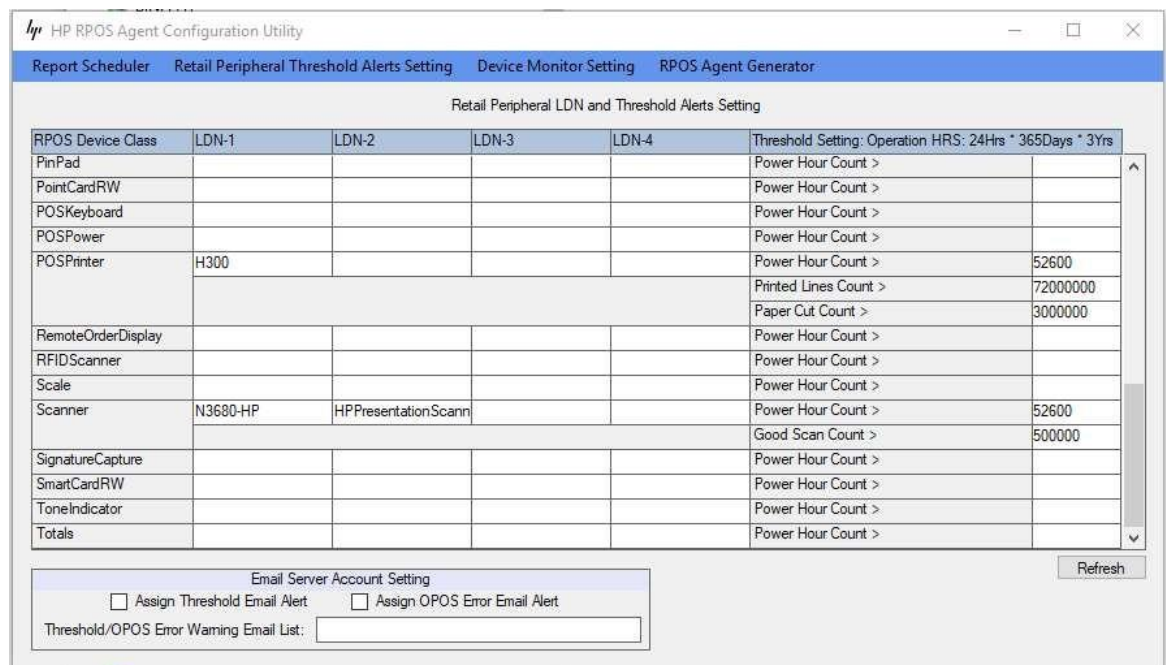
図1



- [Retail Peripheral Threshold Alerts Setting] (リテール周辺機器のしきい値アラート設定) : [HP Retail Peripheral Agent]では、デバイス情報を割り当てて収集するためのキー設定として、デバイスのLDN (論理デバイス名) が使用されます。このセクションには、サポートされるリテール周辺機器を、LDNを使用して管理一覧に割り当て (追加または削除)、監視するしきい値をカスタマイズするためのオプションがあります。HP製の周辺機器の場合、[HP Retail Peripheral Agent Configuration Utility] (HP Retail Peripheral Agent設定ユーティリティ) には、HP製の周辺機器のデバイスIDを自動的に検出し、デバイスの初期設定のLDN (論理デバイス名) を設定一覧に割り当てるためのロジックが搭載されています。デバイスのしきい値設定は、平均故障間隔 (MTBF) の仕様から設定一覧に値が自動的に入力されます。[HP Retail Peripheral Agent]は、36のUPOSデバイスクラスをすべてサポートし、同じデバイスクラスは4つまでサポートします。

たとえば、図2では、リテール端末システムにHP H300レシート プリンターが接続され、2つのHPスキャナー デバイスクラスがインストールされています。初期設定では、これらのデバイスは設定ユーティリティによって検出され、LDNおよびしきい値設定が構成プロファイルに自動的に入力されます。LDNとしきい値のフィールドは両方ともユーザーが希望するLDN/しきい値設定に編集できます。そのため、これらのフィールド/設定を使用すると、他社製のリテール周辺機器や、LDN名をカスタマイズしたHP製の周辺機器をサポートできます。注：しきい値フィールドの初期設定値はHPのテスト用に入力されたものですので、ユーザーの仕様に合わせて変更する必要があります。

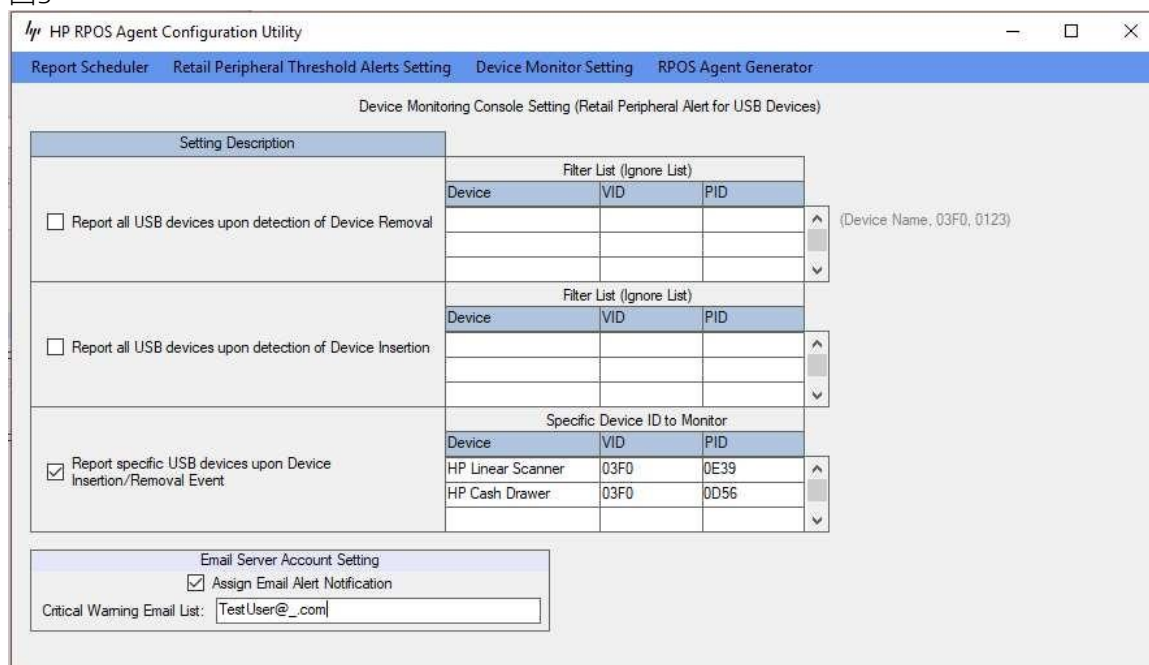
図2



- [Device Monitor Setting]（デバイスの監視設定）：このセクションには、特定のUSBデバイス接続の状態または任意のUSBデバイスを監視するためのオプションがあります。デバイスが検出された場合やデバイスが取り外された場合にレポートを生成する機能があります。端末がSMTPをサポートしている場合は、イベントを電子メールでユーザーに直接通知することもできます。

たとえば、図3の[Device Monitor Setting]（デバイスの監視設定）セクションの設定では、HPリニア スキャナーとHPキャッシュ ドロアーのデバイスIDが監視一覧に入力されています。予期しない出来事によってデバイス接続が誤って取り外された場合や、デバイスのケーブル長設計がUSBの仕様の範囲外だった場合、またはデバイスのシグナル インテグリティに問題が発生した場合には、[HP Retail Peripheral Agent]はそのイベントを記録し、TestUser@.com宛てに電子メールの通知を送信できます。

図3



[HP Retail Peripheral Agent]サービスの情報

[HP Retail Peripheral Agent]は、初期設定では起動時の遅延自動開始が設定されています。
[HP Retail Peripheral Agent]を手動で開始する場合、開始または停止のタイミングを管理したり、サービスのステータスを確認したりするために使用できる方法が2つあります。

方法1：コマンド コンソールの使用

1. [スタート]→[ファイル名を指定して実行]の順に選択し、「cmd」と入力して、Windowsのコマンド コンソールを開きます。
2. サービスを開始するには、コマンド コンソールで「sc start “HP RPOS Agent Service”」と入力します。
3. サービスを停止するには、コマンド コンソールで「sc stop “HP RPOS Agent Service”」と入力します。
4. サービスのステータスを確認するには、コマンド コンソールで「sc query “HP RPOS Agent Service”」と入力します。

方法2：Windowsのネイティブ サービス ツールの使用

1. [スタート]→[ファイル名を指定して実行]の順に選択し、「services.msc」と入力します。
2. サービスを開始するには、[HP RPOS Agent Service]サービスを右クリックして、[開始]をクリックします。

3. サービスを停止するには、[HP RPOS Agent Service]サービスを右クリックして、[停止]をクリックします。
4. 起動時にサービスが自動的に開始されるように設定するには、[HP RPOS Agent Service]サービスを右クリックして、[プロパティ]を選択します。次のウィンドウの[全般]タブで、[スタートアップの種類]ドロップダウンメニューから[自動]を選択します。[適用]→[OK]の順にクリックして、ウィンドウを閉じます。

注：[HP Retail Peripheral Agent]を使用するには、システム上に.Net Framework 4.6がインストールされている必要があります。.Net Frameworkのバージョンが古いと、[HP Retail Peripheral Agent]をロードできない場合があります。[HP Retail Peripheral Agent]サービスと[HP TechPulse]サービスは両方とも、核心的な依存関係が正常にロードされることを保証するために、開始が遅延するように設計されています。システムの起動中にサービス管理クエリを呼び出すと、サービスは停止していると返されます。サービスが開始するには、遅延開始のための時間が必要です。サービスが実行されていないと表示され続ける場合は、システムのイベントビューアーで詳細を確認してください。

リテールデバイスのプロパティおよび統計値の更新

[HP Retail Peripheral Agent]は、標準的なUPOSモデルおよび仕様を使用して管理機能データを収集します。[HP Retail Peripheral Agent]は、リテール周辺機器のプロパティおよび使用統計を1日に1回収集するように設計されています。UPOSの仕様に基づいて、排他的に使用されるすべてのデバイスがUPOS管理機能フィールドデータの収集に利用できるようにする必要があります。リテール周辺機器が毎日キャプチャされることを保証するため、RPOSソフトウェアが管理機能データを収集する前に、管理対象の周辺機器ごとに確定メソッドを実行することをおすすめします。確定メソッドが実行されると、下記のさまざまなメソッドを使用して手動で[HP Retail Peripheral Agent]サービスを呼び出し、データを収集できます。

以下の方法のどれかを使用すると、システムに接続されたすべてのデバイスが再スキャンされます。

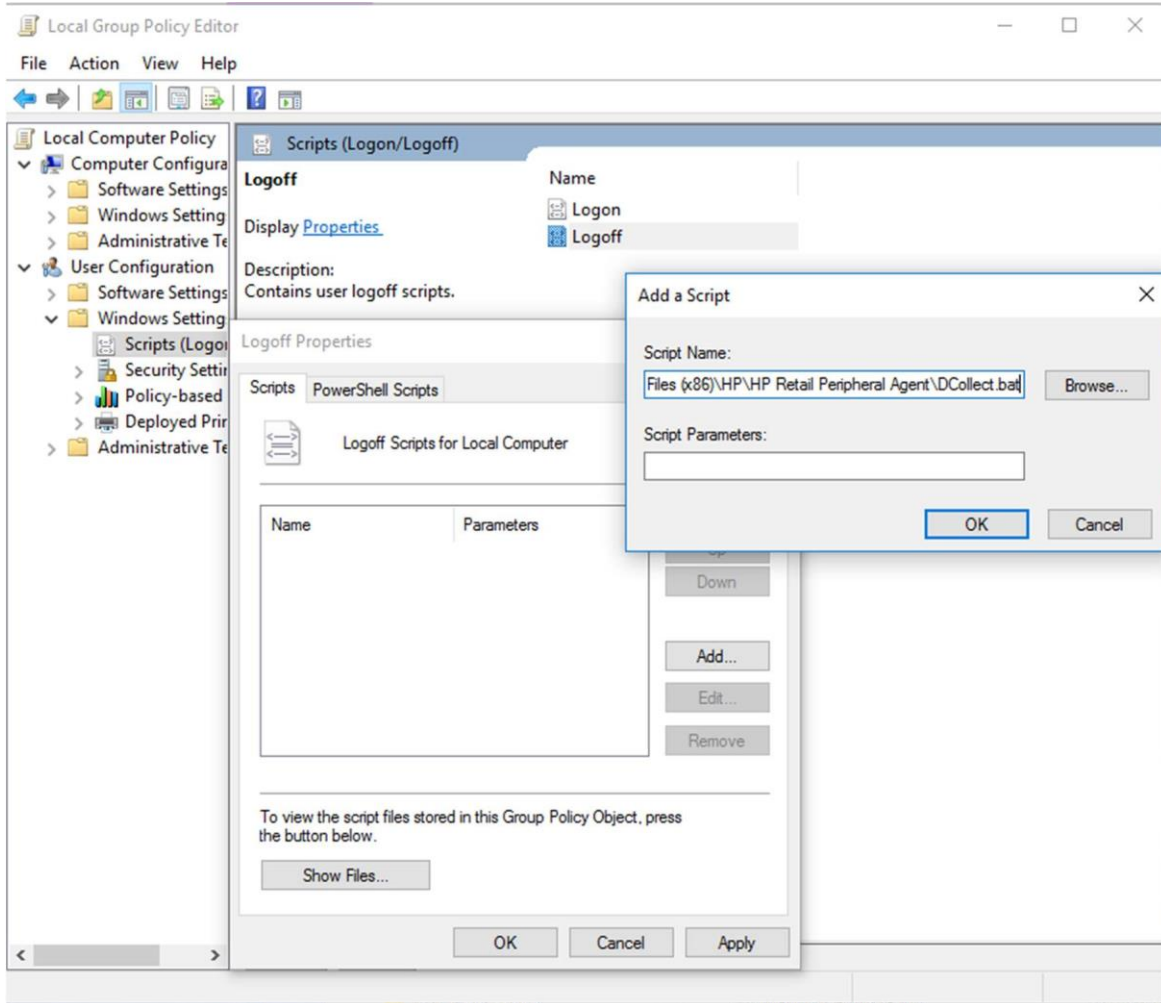
- [HP TechPulse]のためにデバイスの管理機能情報を手動で収集（暗号化されたjsonデータファイルストアを「C:\ProgramData\HP\HP Touchpoint Analytics Client\External Apps\Dataclass\HP RPOS」に生成）するには、コマンドラインで「**sc control “HP RPOS Agent Service” 255**」と入力して、サービス管理オプションを実行します。または、コンテンツをローカルに保存する代替管理ソリューションでは、「sc control “HP Retail Peripheral Agent Service” 155」と入力します。注：生成されたデータをDaaSポータルから参照するには、動作状態の[HP TechPulse]サービスが必要です。[HP TechPulse]について詳しくは、外部リンク<http://www.hp.com/go/daas/>（英語サイト）を参照してください。

- 「sc control “HP RPOS Agent Service” 255」 コマンドライン文字列は、バッチファイルを使用してWindowsの起動時に挿入することも、UPOS確定メソッドの実行後（ストアのシフト変更時、閉店時、またはリテールPOSアプリケーションの終了時など）に挿入することもできます。
 - a. リテール周辺機器が24時間排他的に使用される場合や、RPOSソフトウェアが確定メソッドを実行できない場合には、Windowsのログオフ時にサービス管理呼び出しを挿入することをおすすめします。これによって、[HP Retail Peripheral Agent]はメンテナンス（Windows Update、メニューの更新など）のためにPCの再起動、PCのシャットダウン、またはWindowsユーザーのログオフが実行されるたびにデータを収集できます。RPOSソフトウェアはWindowsのログオフプロセス中にリテール周辺機器の排他的使用を解除するため、[HP Retail Peripheral Agent]サービスおよび[HP TechPulse]サービスは管理機能情報を収集できます。

Windowsのログオフ時に挿入するには、以下の操作を行います。

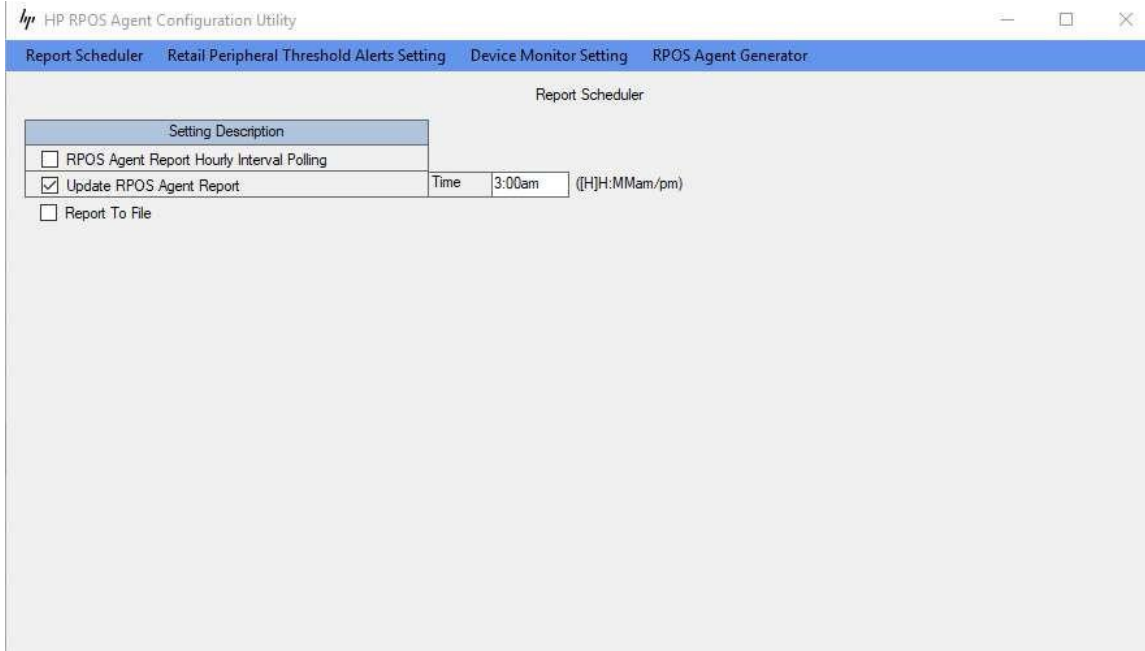
- 「gpedit.msc」 を実行します。
- [ユーザーの構成]→[Windowsの設定]→[スクリプト]→[ログオフ]の順に選択します。
- [追加]オプションを選択し、図に示すように以下の文字列を入力します。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Retail Peripheral Agent\DCollect.bat



- b. 動的な環境でリテール周辺機器が排他的に使用されている場合は、図4に示すように、[HP Retail Peripheral Agent]が特定の時間にデバイス情報を取得するように構成できます。注：RPOSソフトウェアと[HP Retail Peripheral Agent]が同時にリテール周辺機器を制御しようとする競合状態を回避するために、端末が管理対象のすべてのリテール周辺機器の制御を解放している時間を設定する必要があります。

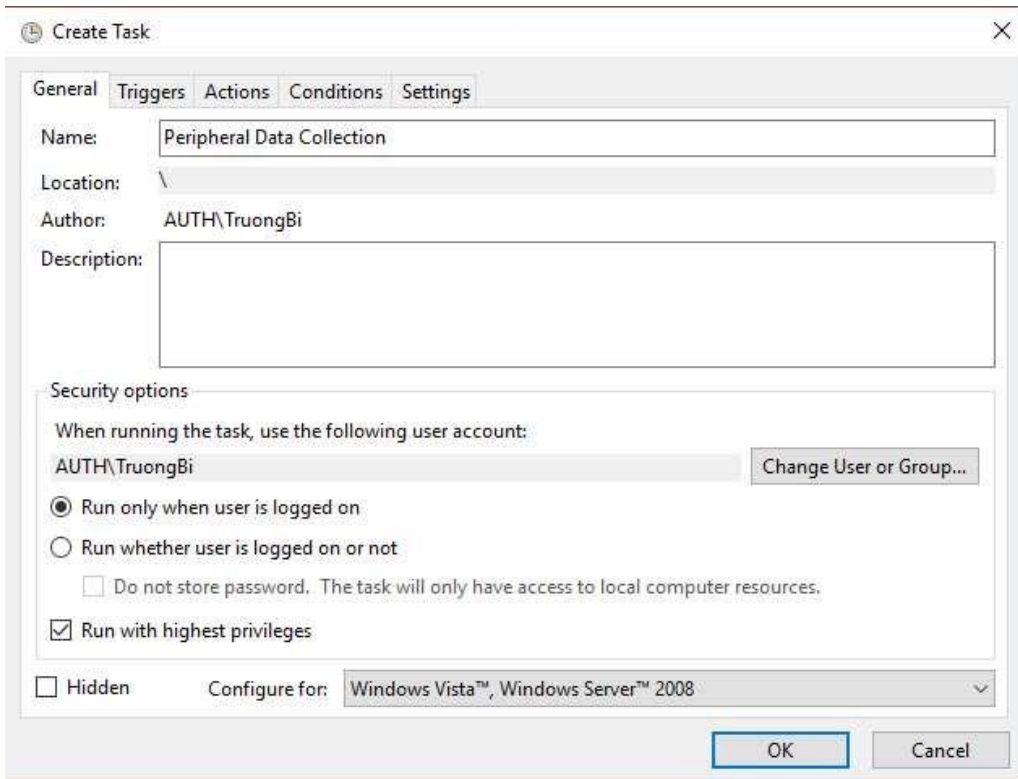
図4



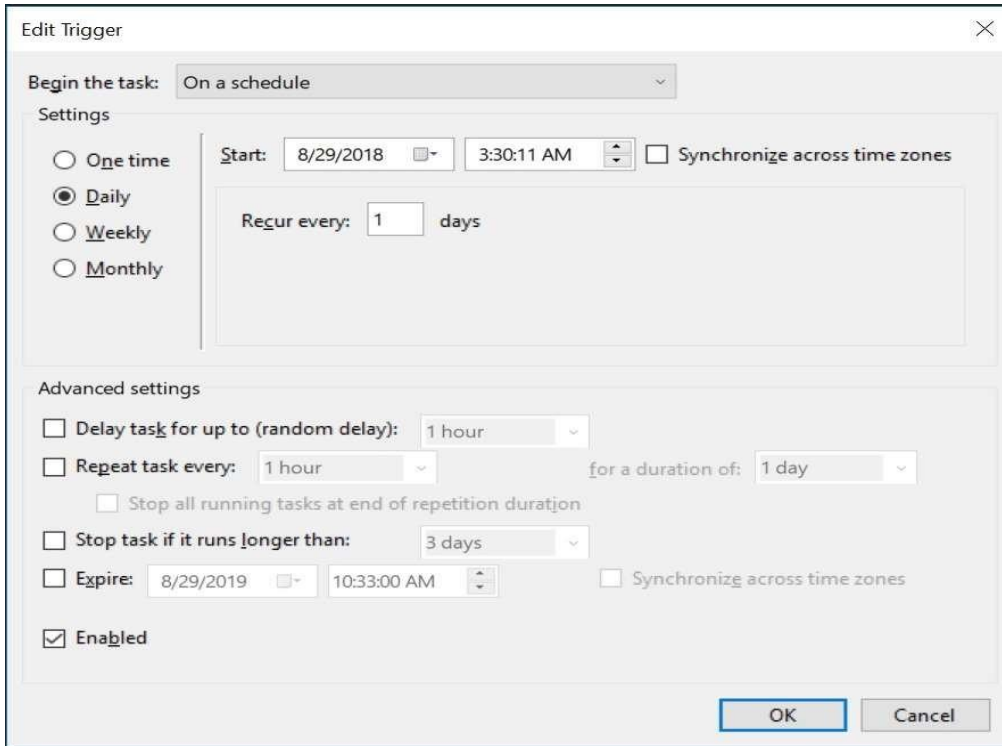
- c. リテールPOSアプリケーション プロバイダーの許可を得て、データ収集のタイミングを制御する代替の時間主導型プロセスを使用する場合は、Windowsの[タスク スケジューラ]機能を使用して、リテールPOSアプリケーション/端末と連携できる時間を設定することをおすすめします。このプロセスを確立するために、小売店は毎日の処理を妨げずにリテールPOSアプリケーションを終了して再起動できる最適な時間について助言する必要があります。詳細に検証することを強くおすすめします。また、プロバイダーの承認も必要です。使用されるアプリケーションによってはアプリケーションのスレッド終了がデータベースに影響する場合があります、続行する前に詳細に検証する必要があります。時間が確定したら、コマンドライン プロセスを使用してリテールPOSアプリケーションを閉じることができます。これによって、周辺機器の排他的使用が解除されます。次に、「sc control "HP RPOS Agent Service" 255」または「sc control "HP RPOS Agent Service" 155」を実行して、周辺機器のデータを収集します。

データが正常に収集されたら、追加のコマンドラインロジックを実行してリテールPOSアプリケーションを再起動し、アプリケーションを当初の状態および形態に戻すことができます。以下に手順の例を示します。

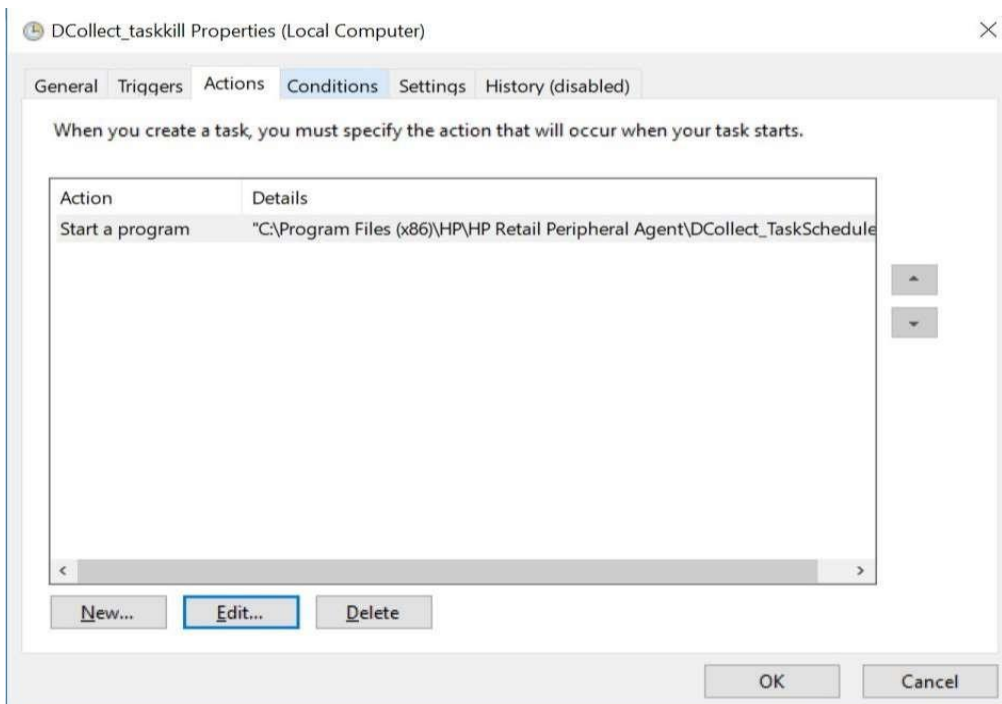
- Windowsのタスク スケジューラ アプリケーション (taskschd.msc) を実行します。
- 新しいタスクを作成するためのオプションを選択します。



- データを収集するための希望のトリガー ポイント/日時をセットアップします。



- リテールPOSアプリケーションを終了し、データ収集コマンドを実行するバッチファイルを設定します。バッチファイル C:\Program Files (x86)\HP\HP Retail Peripheral Agent\DCollect_Taskcheduler.bat を参照してください。



- **sc control “HP RPOS Agent Service” 155**。代替の管理機能ソリューションとしてデバイスの管理機能情報を手動で収集（データファイルストア C:\ProgramData\HP\RetailPeripheralAgent*date&time*.dat を生成）するには、コマンドライン文字列「sc control “HP RPOS Agent Service” 155」を実行して、サービス管理オプションを実行します。注：周辺機器のデータがHP DaaSポータルに表示されないことに関して疑問がある場合、この追加機能は[HP Retail Peripheral Agent]側と[HP TechPulse]側のどちらに問題があるのかを判断するためのデバッグ手順として使用できます。ファイルが正常に作成されるがDaaSポータルには表示されない場合、問題は[HP TechPulse]側にあります。データファイルが生成されない場合は、[HP Retail Peripheral Agent]側のローカルな問題です。トラブルシューティングについては、「FAQ」セクションを参照してください。

管理機能フィールド

周辺機器のオブジェクトPOS (OPOS) プロパティは、UPOSの初期化メソッドが正常に実行されたときに、デバイスの統計取得メソッドおよびプロパティの正常な戻り呼び出しとともに利用できます。下記の管理機能情報の表は、HP RPOSが分析のために収集する内容です。[HP Retail Peripheral Agent]は、36のリテール デバイスクラスすべてについて、一般的な統計フィールド（下記の太字）をサポートしています。

DateTime	ISO 8601切り詰め表現（ローカルシステム時間）YYYYMMDDThhmmss
BUSerialNumber	ベースユニットのシリアル番号（wmic biosはserialnumberを取得）
DeviceCategory	デバイスのカテゴリ（36のリテール デバイスクラス）。 （UPOSのretrieveStatisticsメソッド：DeviceCategory）
PeripheralID	HP製の周辺機器は、周辺機器のリビジョンIDおよびシリアル番号を取得します（UPOSのretrieveStatisticsメソッド：SerialNumber）
	HP製以外の周辺機器は、UPOSの取得コマンドから周辺機器のシリアル番号を取得します
LogicalDeviceName	デバイスの要求に使用される論理名をレポートします（UPOSのメソッド：LogicalDeviceName）
DeviceControlVersion	周辺機器の制御ドライバーのバージョン（UPOSのプロパティ：DeviceControlVersion）
DeviceControlInstallPath	制御ドライバーのインストールパス（UPOSのプロパティ：DeviceControlDescription）
DeviceServiceVersion	周辺機器のサービスドライバーのバージョン（UPOSのプロパティ：DeviceServiceVersion）
DeviceServiceIntallPath	サービスドライバーのインストールパス（UPOSのプロパティ：DeviceServiceDescription）

DeviceCoreDriver	HP製の周辺機器は、yes installedまたはmissing core driver stackを返します
	HP製以外の周辺機器はNULLを返します
HPHWMode	現在のHWインターフェイス（HP製の周辺機器専用のデータフィールド）HP製以外の周辺機器はNULLを返します
FirmwareRevision	周辺機器のデバイスファームウェアバージョン文字列（存在する場合） /FW内のプログラム（UPOSのretrieveStatisticsメソッド： FirmwareRevision）
ManufacturerName	周辺機器のデバイス製造元名の文字列（存在する場合）/FW内のプログラム（UPOSのretrieveStatisticsメソッド： ManufacturerName）
	HP製の周辺機器はNULLを返します
ModelName	周辺機器のデバイスモデル名の文字列（存在する場合）/FW内のプログラム（UPOSのretrieveStatisticsメソッド： ModelName）
	HP製の周辺機器はNULLを返します
ManufactureDate	周辺機器のデバイス製造日の文字列（存在する場合）/FW内のプログラム（UPOSのretrieveStatisticsメソッド： ManufactureDate）
DeviceName	HP製の周辺機器：物理デバイスの識別子
	HP製の周辺機器：このフィールドはモデル/製造フィールドを置き換えます。（デバイスIDに基づいて）HPデバイスの場合、ロジックはHPの商品名に対応します
	HPデバイス以外では、次の情報を引き出します（UPOSのretrieveStatisticsメソッド： PhysicalDeviceDescription）
CheckHealthStatusResultCode	デバイス接続についてデバイスの内部ヘルスチェックを実行し、結果コードをレポートします
CheckHealthStatusResultCodeExtended	デバイス接続についてデバイスの内部ヘルスチェックを実行し、拡張結果コードをレポートします
HoursPoweredCount	電源が入っている時間数
PaperCutCount	
	用紙カットの回数
ReceiptLinePrintedCount	印刷されたレシートの行数
GoodScanCount	正常に行われたスキャンの回数
GoodReadCount	
	正常に行われた読み取りの回数
ThresholdPowerHourCount	すべてのUPOSデバイスクラスについてPowerHourCountの値が設定されている場合、しきい値設定が含まれます
ThresholdPrintedLinesCount	POSPrinterおよびFiscalPrinterデバイスクラスについてPaperLinesCountの値が設定されている場合、しきい値設定が含まれます
ThresholdPaperCutCount	POSPrinterおよびFiscalPrinterデバイスクラスについてPaperCutCountの値が設定されている場合、しきい値設定が含まれます
ThresholdGoodScanCount	ScannerデバイスクラスについてGoodScanCountの値が設定されている場合、しきい値設定が含まれます
ThresholdGoodReadCount	MSR、MICR、ImageScannerデバイスクラスについてGoodReadCountの値が設定されている場合、しきい値設定が含まれます

注：このリリースでは、以下のデバイスクラスについての追加フィールドはサポートされません。

UnifiedPOSデバイス プログラム名 (V.1.14.1)	将来検討するためのその他の一意のフィールド
Biometrics	SuccessfulMatchCount UnsuccessfulMatchCount
CashDrawer	DrawerGoodOpenCount DrawerFailedOpenCount
ElectronicJournal	WriteCount FailedWriteCount
ImageScanner	SessionCount FailedReadCount
Keylock	LockPositionChangeCount
LineDisplay	OnlineTransitionCount
MICR	FailedReadCount
MotionSensor	MotionEventCount
MSR	FailedReadCount
PINPad	ValidPINEntryCount InvalidPINEntryCount
POSKeyboard	KeyPressedCount
POSPrinter	
Scale	GoodWeightReadCount
Scanner	SessionCount
SignatureCapture	FailedSignatureReadCount GoodSignatureReadCount
ToneIndicator	ToneSoundedCount

HPの現在のデバイス サポート一覧

リテール管理機能データをサポートするために、デバイス ドライバーおよびデバイスFWは、UPOS管理機能モデルをサポートするように設計する必要があります。以下の表のデバ

イスはUPOS管理機能データをサポートしていることが確認されています。注：これらのデバイスがサポート一覧に記載されている場合でも、動作モードも同様にサポートされている必要があります。たとえば、バーコード スキャナーが「キーボード モード」でプログラムされている場合、UPOSドライバー スタックがデバイスのFWにアクセスしてUPOS管理機能データを取得することはできません。

デバイス名	論理デバイス名 (LDN)	製品番号	コメント
バーコードスキャナー、注：キーボードモードではサポートされません			
HP Engage Go Mobile System/バーコードスキャナー	N660X-HP	なし	バージョン1.14.0.18以降のドライバーが必要です
HP Engage One 2Dバーコードスキャナー	N3680-HP	1RL97AA	
HP Engage One W 2Dバーコードスキャナー	N3680-HP	3GS20AA	
HPイメージングバーコードスキャナー	HPImagerScanner	BW868AA / BW868AT	
HPリニアバーコードスキャナー	HPLinearScanner	QY405AA / QY405AT	
HPリニアバーコードスキャナーII	HPLinearScanner	Z1Z36AA	
HPプレゼンテーションバーコードスキャナー	HPPresentationScanner	QY439AA / QY439AT	
HPリテールインテグレートドバーコードスキャナー	HPIntegratedImagingBarcodeScanner	E1L07AA / E1L07AT	
HP RP9内蔵バーコードスキャナー：ボトム	HPIntegratedSLImgScn	N3R60AA	
HP RP9内蔵バーコードスキャナー：サイド	HPIntegratedSLImgScn	N3R61AA / N3R61AT	
HP Value 2Dワイヤレススキャナー	HPQSWirelessScanner	K3L28AA / K3L28AT	
HP無線バーコードスキャナー	HPWirelessBTScanner	E6P34AA / E6P34AT	
キャッシュドローア			
HPフリップトップ型キャッシュドローア		BW867AA / BW867AT	RJ12 キャッシュドローアの管理機能サポートはホストに依存します
HPヘビーデューティーキャッシュドローア		FK182AA / FK182AT	
HPスタンダードデューティーキャッシュドローア		QT457AA / QT457AT	
HP Valueキャッシュドローア		4AK35AA	
ラインディスプレイ			
HP Engage One トップマウント型2 x 20 CFD	HPTD620Display	1RL95AA	
HP Engage One W トップマウント型2 x 20 CFD	HPTD620Display	3GS18AA	
HPリテール版一体型2x20コンプレックス	HPLCM960Display	G7G29AA	FW 1.65.10以降が必要です
HP RP9 2x20 LCD トップマウント (アームなし)	HPLM940Display	X3K01AA	
HP RP9内蔵2x20ディスプレイボトム (アームあり)	HPLM940Display	N3R58AA	
HP RP9内蔵2x20ディスプレイトップ (アームあり)	HPLM940Display	P5A55AA / P5A55AT	
MSR			
HP Engage Go Mobile System MSR	HPSingleSRDMSR	なし	v3.29より前のドライバースタックでは、昇格した権限で設計する、または管理者権限で実行するた
HP Engage One MSR	HPSingleSRDMSR	なし	
HPリテール内蔵デュアルヘッド磁気ストライプリーダー	HPUSBDualMSR HPUSBDualEncryptMSR	QZ673AA / QZ673AT	
ElitePad用HPリテールジャケットMSR	HPUSBShecMSR	E6R78AA / E6R78AT	
ElitePad用HPリテールジャケット (バッテリー付き) MSR	HPUSBShecMSR	E6R79AA / E6R79AT	

HP RP2内蔵シングルヘッドMSR (SREDなし)	HPSinglenoSRDMSR	J1A33AA / J1A33AT	めにISVが必要で す
HP RP7シングルヘッド磁気ストライプ リーダー (SREDなし)	HPSinglenoSRDMSR	K1K15AA / K1K15AT	
HP RP9内蔵デュアルヘッドMSR	HPUSBDualMSR HPUSBDualEncryptMSR	Y3U27AA	
HP RP9内蔵シングルヘッドMSR	HPSinglenoSRDMSR	N3R63AA	
HP USBミニ磁気ストライプリーダー (ブラケット付き)	HPUSBMiniMSR	FK186AA / FK186AT	
POSプリンター			
Epson H2000 PUSBプリンター	TM-H2000U	K3L29AA / K3L29AT	
Epson TM 2000プリンター	TM-2000	K3L299AA / K3L299AT	
Epson TM-88V PUSBプリンター	TM-T88VU	E1Q93AA / E1Q93AT	
Epson TM-88Vシリアル/USBプリンター	TM-T88V	D9Z52AA / D9Z52AT	
Epson TM-88VIシリアルEthernetプリンター	TM-T88VI	2HV26AA	
Epson TM-88VIシリアルEthernet USBプリンター	TM-T88VIU	2HV25AA	
Epson TM-H600IV PUSBプリンター	TM-H600IVU	D9Z51AA / D9Z51AT	
Epson TM-M30プリンター	TM-m30U	2HV27AA	
HPデュアルシリアル/USBサーマルレシート プリンター	A799	BM476AA / BM476AT	
HP Engage Oneカラム プリンター	H300	なし	
HP Engage Oneシリアル/USBサーマル プリンター	H300	1RL96AA / 1RL96AT	
HP Engage One Wシリアル/USBサーマル プリンター	H300	3GS19AA	
HPハイブリッドPOSプリンター (MICR II付属)	A776	X3D36AA / X3D36AT	
HPハイブリッドサーマルプリンター (MICR付属)	A776	FK184AA / FK184AT	
HP LANサーマルレシート プリンター	A799	M2D54AA	
HPサーマルレシート プリンター (PUSB用)	A799	FK224AA / FK224AT	
HP USBレシート プリンター	A794	EY023AA	
HP Valueレシート プリンター (PUSB用)	A798	F7M67AA / F7M67AT	
HP Valueシリアル/USBレシート プリンター	A798	F7M66AA / F7M66AT	
HP Valueシリアル/USBレシート プリンターII	A798	X3B46AA / X3B46AT	

既知の動作

- 1) [HP Retail Peripheral Agent]が情報を抽出する前にアプリケーションが周辺機器のOPOSドライバーを排他的に使用した場合は、その周辺機器のプロパティを取得できません。周辺機器のOPOSおよびサービスドライバーを解放する必要があります。また、情報を更新するには、再起動、デバイスの再接続、または更新コマンドを実行する必要があります。これは、UPOS仕様の現在の実装に従って予期される動作です。
- 2) [HP Retail Peripheral Agent]で周辺機器を構成した場合、後からユーザーがデバイスを取り外しても設定は構成一覧に表示され続けます。[Retail Peripheral Threshold Alerts Setting]（リテール周辺機器のしきい値アラート設定）で[Refresh]（更新）ボタンをクリックしても、取り外された周辺機器のLNDはLNDフィールドに残ります。デバイスが構成されると、[HP Retail Peripheral Agent]は手動モードで設定されます。構成一覧を更新するには、LNDフィールドで周辺機器のLNDを削除する必要があります。
- 3) それぞれの周辺機器は、さまざまな通信モード（単方向または双方向）で動作するようにプログラム/設定できます。デバイスがUPOS管理機能モデルをサポートしているが、UPOS管理機能モードをサポートしていない通信モード（つまり、OPOSドライバーがサポートされないキーボードモード）で動作している場合、[HP Retail Peripheral Agent]は管理機能データを生成できません。デバイスが双方向モードであり、UPOSドライバースタックがサポートされていない場合、[HP Retail Peripheral Agent]は管理機能データを生成できません。前提条件を満たすには、デバイスはUPOSドライバースタックをサポートできる通信モードで動作する必要があります。

たとえば、あるUSBスキャナーモデルは以下の通信モードの動作に設定できます。

- COMモード（COMプロトコルへの仮想USB）：通信するためにUPOSドライバースタックが必要な双方向モードまたはシリアルプロトコルへの直接接続（つまり、HyperTerminalを使用）で動作して、デバイスを排他的に使用します。注：このモードをサポートしていないUPOSドライバースタックもあります。サポート情報については、デバイスの供給元に問い合わせてください。
- HIDモード：通信するためにUPOSドライバースタックが必要な双方向モードで動作します。注：このモードをサポートしていないUPOSドライバースタックもあります。サポート情報については、デバイスの供給元に問い合わせてください。
- キーボードモード：単方向モードの通信で動作します。ソフトウェアはデバイスのFWから入力を受け取ることはできますが、デバイスのFWに書き込むことはできません。このモードでは単方向の通信が行われるため、ほとんどの周辺機器は、正常スキャンの回数や通電時間などの使用状況データを増加させることができません。通常、データはFWに格納されます。

- 複合モード：このモードの通信は、HIDモードとキーボードモードの両方の機能を1つに組み合わせています。注：このモードをサポートしていないUPOSドライバースタックもあります。サポート情報については、デバイスの供給元に問い合わせてください。
- 4) データを更新しようとしたときにデバイスの要求に失敗したりデバイスが取り外されたりした場合、データベースには古いプロパティデータが存在します。最新のデータについては、本書の「リテール デバイスのプロパティおよび統計値の更新」セクションを参照してください。
- デバイスのFWを使用して管理機能データを保存するデバイスでは、デバイスのFWレジスターへの継続的な書き込みを避けるため、一部のフィールドでカウンターの反映が遅延する場合があります。正確な情報にこのような遅延が発生した場合は、供給元に問い合わせてください。たとえば、あるデバイスではカウンターレジスターに書き込みを行うまでに1時間のアップタイムがあり、デバイスのFWにリアルタイムで継続的に書き込みを行うロジックは実装されていません。

FAQ

[HP Retail Peripheral Agent]のインストール時にはどのような質問をされ、どのような情報が収集されますか？

周辺機器およびISVモデルは前提条件を満たしていますか？以下に例を示します。

使用する周辺機器はUPOS管理機能モデルをサポートしていますか？

ISVソリューションはサポート対象のオペレーティングシステム(OS)環境で動作しますか？

各端末へのHP DaaSソリューションをサポートするために、リテール端末はインターネットポート80および443を使用できますか？

ISVソリューションは.Net Framework v4.6以降と互換性がありますか？

すべての回答が「はい」の場合は次の質問に進みます。それ以外の場合、このソリューションは展開される環境に適合しない可能性があります。

お客様が[HP Retail Peripheral Agent]で監視したい周辺機器の一覧はどれですか？

各周辺機器に割り当てられたLDN(論理デバイス名)は何ですか？

リテール端末ソフトウェアがリテール周辺機器を30秒以上独占的に使用しない時間は1日の中にありますか？

- この時間を決定し、周辺機器のデータを収集するために使用できる時間を[HP Retail Peripheral Agent]に設定します。
- ISVロジックがすべての周辺機器に対して24時間アクセスするように設計されている場合は、本書の「リテール デバイスのプロパティおよび統計値の更新」セクションを参照してください。

他社製の周辺機器に制限はありますか？

リテール デバイスがUPOS仕様の管理機能部分に準拠している場合は、[HP Retail Peripheral Agent]と互換性があります。

[HP Retail Peripheral Agent]を使用するために[HP TechPulse]は必要ですか？

いいえ。[HP Retail Peripheral Agent]はスタンドアロンで使用することも、他の管理機能アプリケーションとともに使用することもできます。

リテール周辺機器の統計データについて、毎日のキャプチャが実行されるタイミングは制御できますか？

ユーザーは設定ユーティリティを使用して開始時刻を変更できます。現在、初期設定は午前3:00になっています。開始時刻は、RPOSソフトウェアが情報を取得する場合に適したタイミングに変更できます。

リテール周辺機器の毎日のキャプチャを実行する場合にかかる時間はどれだけですか？

構成する必要がある管理対象の周辺機器の数に依存します。平均すると、ほとんどの周辺機器は約2~4秒、レシートプリンターの場合は約5~9秒です。この時間は、周辺機器がデバイスのFWと通信するための主要プロトコルおよび取得するデータの量によって変わります。たとえば、デバイスがシリアルデバイスであり、ボーレートが9600以下である場合は、バス速度が高速なUSB HID上のデバイスよりも情報取得時の遅延が長くなります。

周辺機器のデータが収集されたことはどのように確認できますか？

[HP TechPulse]はデバイスの管理機能情報を「C:\ProgramData\HP\HP Touchpoint Analytics Client\External Apps\Metadata\HP RPOS」に収集します。ローカルファイル生成オプションでは、C:\ProgramData\HP\RetailPeripheralAgent*date&time*.datに保存されます。手動トリガーまたは[HP Retail Peripheral Agent]の時間間隔トリガーでは、jsonファイル拡張子の作成時間がトリガーの実行時間に一致している場合、[HP Retail Peripheral Agent]がデータを正常に収集したことを示します。

リテール周辺機器が現在リテールPOSアプリケーションによって排他的に使用されているかどうかを判定する方法はありますか？

確認する方法の1つは、供給元が提供する2つのOPOSテストユーティリティを使用するか、RPOSソフトウェアおよびOPOSテストユーティリティを使用する方法です。両方のユーティリティが同時に周辺機器の排他的使用を要求することはできません。注：リテールデバイスカテゴリがすべて排他的使用デバイスというわけではありません。詳しくは、UPOSの仕様を参照してください。

リテール周辺機器が動作状態になく、その結果[HP Retail Peripheral Agent]がリテール周辺機器から良好なデータを収集できなくなっていることを判定する方法はありますか？

[HP Retail Peripheral Agent]および[HP DaaS]のアナリティクスまたはプロアクティブ管理のサービスが「実行」ステータスにあることを確認します。「実行」ステータスにない場合は、イベントビューアーでエラーログを確認し、コントロールパネルの追加/削除セクションで両方のアプリケーションがインストールされていることを確認します。サービスのステータスを確認するためのコマンドラインは以下のとおりです。

```
sc query "HP RPOS Agent Service"  
  
sc query "HPTouchpointAnalyticsService"
```

デバイスが物理的に接続され、適切なデバイスコアドライバー（システムのデバイスマネージャーに表示されるデバイスドライバー）が正常な状態にあることを確認します。デバイスのテストユーティリティは当該の環境で機能しますか？機能しない場合は、供給元のドライバースタックを確認してください。機能する場合は、より詳細なデバッグを行うことができます。通常はデバイス製造元が提供するサービスドライバー内のデバッグファイルを検索します。または、ISVと連携して、制御レイヤーのデバッグバージョンをインストールして結果を分析できるかどうかを確認します。

[HP Retail Peripheral Agent]はWindowsのJavaPOS RPOSソフトウェアとともに使用できますか？

はい。同じデバイスクラスのOPOSおよびJavaPOSドライバースタックは、同じWindows OS環境で共存できます。[HP Retail Peripheral Agent]は今までどおりOPOSドライバーモデルを使用して管理機能データを収集できます。



© 2018 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。Intelは米国Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。